

ICT活用で算数の学力を向上

学力低位層を積極指導

東京都日野市立平山小学校（五十嵐俊子校長）は1月28日、算数の学力向上のためのICT活用実践研究の発表会を実施した。同校は平成21・22年度(働)パナソニック教育財団特別研究指定校、平成22年度日野市教育委員会研究課題校、総務省「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」指定校。発表会には、板東久美子文科省生涯学習政策局長、齋藤晴如同局参事官ら関係者が出席。最先端のICTを活用した実践で教員の指導力が向上し、授業改善が図られたことで、児童の学力が向上につながったと報告された。

東京都日野市立平山小学校

協働学習で意欲を高める

同校は昨年度からの2年間、パナソニック教育財団の研究指定と支援を受け、算数科の学力向上に関する実践研究を積み重ねてきた。総務省の絆

プロジェクトによるタブレットノートパソコンはこの研究発表会の数日前に導入されたばかり。3・4年生の公開授業でICTを活用した指導方法の工夫を図ったところが特

長。つまずきのみられる児童はCRT（教研式目標基準準拠標準学力検査）でC評価の児童を対象にしている。自治体からの支援も大きい。同市では平成18年度からICT環境の整備に取り組み始めた。市長の財政面での支援とともに、各校の校長が活用を推進してきた。市のICT支援員によるサポート体制も整備されている。学校で困ったとき、教員が相談でき、適切なアドバイスを受けてICT教材の作成などで協力を得ている。

ワーク上の協働学習は、CRTで無回答の児童を減らし、学習への意欲を高めるものとなっている。児童は教科書の問題よりも、クラスメートのつくった問題を解くのであれば、次々とやる気がわき出てくるという傾向を指導にうまく生かしたものだ。

公開授業では、1年生学習支援システムを使用



して、分数の基本事項についての理解を深めた。

4年生は画面上の図形を動かす操作を行うことで、試行錯誤しながら直感的に複合図形を構成・分解し、面積の概念や測定の意味、長方形、正方形の求積法を学んだ。5年生は総合的な学習の時間「平山ダイスプロジェクト」で、児童が見つけた収穫数などの情報を表計算ソフトでグラフ化し、大型モニタでプレゼンテーションした。卒業を控えた6年生は3月に実施する「感謝の会」の企画とその予算について班ごとに検討し、表計算ソフトで表にまとめて発表する活動を実施した。

自己内対話で理解を深める

それを上回った。同時に、4月時点でこれらの領域・観点で全国得点率

パネルディスカッション「デジタル教科書時代への期待」では、齋藤参事官、東京義訓信州大学教育学部附属教育実践総合センター教授、中川一史放送大学ICT活用・遠隔教育センター教授らが登壇。これからのICT活用とデジタル教科書・教材の活用などについて意見を交わした。

中川教授は公開授業について、「個別学習から協働学習へとうまく接続できている」と語り、算数科の授業でのICT活用について、児童間で自分の考えを伝えあう活動では、自分の考えをまとめたものを大きく提示することで共有化ができる」と説明した。

東原教授は、教員にありがちな指導傾向として

を自分で見て受け止めることで、わかることの喜びを味わわせることができる」と話した。

齋藤参事官は、これらのデジタル教科書・教材の在り方について、「最先端のICTを活用した算数の授業を参観した。このような授業を実施するうえで魅力あるコンテンツは重要だと、児童の楽しみ喜んでいる姿を見ていて感じた。授業では45分間ICTを活用しなくてよい。ICTと非ICTのバランスを考え、適切に実施していたのだ」と語った。